

2022 年 4 月吉日

副会長・理事・監事・常任政策議員 各位

一般社団法人中部経済連合会

会長 水野 明久

名古屋大学サイトビジットの開催について (ご案内)

拝啓 平素は本会活動に対して格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、中部経済連合会は、中期活動指針 ACTION2025 の柱の 1 つとして「魅力溢れる圏域の創造」を掲げており、広域産学官連携の活発化などにより魅力と活力のある地域づくりを推進していきたいと考えております。

その具体的施策として、このたび副会長・理事・監事・常任政策議員の皆さまを対象に名古屋大学における先端研究をご視察いただき、今後の産学連携のあり方・進め方などについて研究者も交えて意見交換を実施いたしたく、下記の通りサイトビジットのご案内をいたします。

諸事ご多忙のこととは存じますが、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日 時： 5 月 12 日(木) 13:30～18:30

※プログラム概要は「別紙 1」ご参照

2. 集合場所：名古屋大学 物質科学国際研究センター

※集合場所および駐車場は「別紙 3」ご参照

3. 定 員： 30 名 程度(先着順)

➤ ご案内先である役員ご本人に限らず、研究開発部門の方などによる代理参加も歓迎いたします。

➤ 今回の実施結果を踏まえ、今後、第 2 回企画を検討予定です。

4. 応募締切： 4月27日(水)

※定員になり次第、締切らせていただきます。

5. 応募方法： 以下のいずれかの方法でご応募ください。

・方法①：【専用 WEB フォーム】<https://fofa.jp/cef/a.p/375/>

・方法②：【FAX】添付の申込書にご記入の上、ご送信下さい。

(お問い合わせ先)

一般社団法人 中部経済連合会 タスクフォース部長

牛田芳克

TEL: 070-8712-6321 052-962-8091

FAX: 052-962-8090

メールアドレス: y.ushida@chukeiren.or.jp

国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学

学術研究・産学連携推進本部 本部長補佐 企画・プロジェクト推進部門長

加藤 滋

TEL: 052-747-6915

FAX: 052-747-6796

メールアドレス: s.kato@aip.nagoya-u.ac.jp

以上

名古屋大学サイトビジット(5月12日(木)) プログラム

時間	内容	詳細
13:30	集 合	名古屋大学 物質科学国際研究センター
13:30~13:40	挨拶	東海国立大学機構 機構長 松尾清一 中部経済連合会 会 長 水野明久
13:40~14:20	名大の産学連携に関する説明	産学連携本部より産学連携体制や現状について説明
14:20~15:20	最先端研究視察 A (共通)	<テーマ：脱炭素> ご参加者共通として、脱炭素に関する研究をご覧いただきます。
15:30~16:30	最先端研究視察 B (選択制)	<テーマ：選択制> ① モビリティ ②マテリアル ③バイオの3テーマの中から、ご希望に応じて選択いただいた研究をご視察いただきます。 詳細は「別紙2」をご確認下さい。
16:40~17:10	質疑応答	-
17:10~18:30	意見交換	産学連携に関し、大学へ期待することなど 意見交換

<留意事項>

- 視察先の都合等により、スケジュール等に変更が生じる場合がございます。
- 意見交換は、お飲み物・軽食をご用意して実施させていただきます。18:30 終了の予定ですが、大学研究者との交流は 19 時頃まで可能な準備をしております。ご都合やご希望に応じ、中座や延長参加をお願いいたします。

最先端研究・産学連携現場視察 概要

<共通> 脱炭素（則永研究室）

工学研究科 化学システム工学専攻 先進化学工学システム講座 循環システム工学グループ 研究室場所：工学部 1 号館
<p>カーボンニュートラル実現のためには、省エネ推進と再エネ導入が基本です。一方、輸送機器の全面的な電化や各種燃料の急激な脱炭素化は、実現困難な社会インフラの変革を要求します。化石資源利用を前提に設計された既存インフラを活用し、完全再エネ化を順次目指す「移行期」が社会コスト最小化に整合するシナリオとして浮上しています。この場合、燃料利用時に発生する CO₂ の分離回収、隔離、利用が必要です。IEA の Net Zero by 2050 に基づけば、CO₂ の回収量は 2050 年には 76 億トンまで増加します。</p> <p>則永研究室では、CO₂ 分離回収が広く実装される未来社会を見据え、CO₂ 分離回収、利用に関わる産学官連携研究を展開しています。「水素利用の省エネ CO₂ 回収技術」、「メタネーション大規模実証」、そして、ムーンショット目標 4 において実施している「冷熱利用大気中 CO₂ 直接回収」に関わる研究活動をご紹介します。</p>
研究室 HP: https://www.material.nagoya-u.ac.jp/nori_lab/

* 中経連では、本年 4 月名古屋大学に設立された「脱炭素社会創造センター」に対して、中経連会員企業によるコンソーシアム型共同研究（オープンイノベーション）の構築を提案しています。

<選択①> モビリティ（鈴木研究室）

工学研究科 機械システム工学専攻 機械知能学講座 モビリティシステムグループ 視察場所：工学部 2 号館
<p>鈴木研究室では、未来社会において不可欠となる「知能化機械と人間の共生」を念頭に置き、システム制御工学の視点からモビリティ系における重要な課題の解決に取り組みます。研究対象は多岐にわたり、交通やエネルギーマネジメントといった社会システムの課題から自動運転、高度運転支援、移動ロボットの自律制御等、移動体の知能化に関する課題まで、モビリティ系における様々なレイヤーでの重要課題に取り組んでいます。また、本質をとらえるための理論展開とその実装のバランス、他分野との連携・融合を強く意識しつつ、多くの研究プロジェクトや民間企業との共同研究にも積極的に取り組んでいます。</p> <p>当日は、自動運転機能付き小型一人乗り電気自動車、運転シミュレータ、自律搬送ロボット、多脚型歩行ロボット等を見学いただく予定です（内容は変更になる可能性があります）。</p>
研究室 HP: https://www.suzlab.mae.nagoya-u.ac.jp/

* 中経連と名古屋大学は、昨年 5 月に「CAMIP」（中部先進モビリティ実装プラットフォーム Chubu Advanced Mobility Implementation Platform）を立上げ、「モビリティまちづくり」の企画設計と社会実装、さらにビジネスモデル・要素技術のイノベーションを目指した取り組みを展開しています。

<選択②> マテリアル（須田研究室）

工学研究科 電子工学専攻 情報デバイス工学講座 先端デバイスグループ 視察場所：エネルギー変換エレクトロニクス実験施設（C-TEFs）ほか
<p>名古屋大学では、ノーベル物理学賞受賞者である天野浩教授を中心に世界トップレベルの窒化ガリウム（GaN）研究拠点を構築し、研究開発を強力に推進しています。教育研究組織として、未来材料・システム研究所(IMaSS)の中に未来エレクトロニクス集積研究センター(CIRFE)を設置しています。また、GaNの結晶成長からデバイス作製までの研究開発、試作が可能な、エネルギー変換エレクトロニクス実験施設(C-TEFs)を設置し、教員のみならず専任技術員を配置して運営しています。名古屋大学だけではなく、産学、学学の共同研究も活発に行っています。多くの企業が大学内に研究サテライト（産学協同研究部門）を設置し、共同研究や C-TEFs を活用した研究開発を進めています。</p> <p>当日は、GaNの結晶成長からデバイス作製まで一気通貫の研究・開発が可能なクリーンルームを備える C-TEFs と研究者が混然一体となり活動する研究棟 C-TECs で GaN 研究の最前線をご覧いただく予定です。</p>
研究室 HP: http://sudalab.skr.jp/

<選択③> バイオ（馬場研究室）

工学研究科 生命分子工学専攻 分子生命化学講座 ナノバイオ計測化学グループ 視察場所：理学共用館 1F
<p>馬場教授のグループは、いきいき百歳社会実現を目指して、ナノ、バイオ、量子、AIなどの最先端技術を駆使したがん・認知症等の超早期診断および診断・治療の融合、がんの日帰り治療、未病状態を見つけ健康に戻す技術、Human Digital Twins による未来ヘルスケアなどの研究開発を進めています。これら成果の社会実装は、馬場教授が代表を務める内閣府・量子技術イノベーション拠点・量子生命および文科省・マテリアル先端リサーチインフラ・次世代バイオマテリアル領域ハブ拠点において、産学官連携のオープンプラットフォームを形成し、技術開発戦略、国際戦略、産業・イノベーション戦略、知財・国際標準化戦略、人材育成などを一体化したオープンイノベーションにより加速しています。</p> <p>当日は、がんの早期診断方法として、最近開発した、尿中に含まれるマイクロ RNA という物質を測定することにより 99%の正確度で脳腫瘍の診断を可能にした研究・開発の現場で、細胞観察の様子やバイオデバイスをご覧いただく予定です。</p>
研究室 HP: https://www.chembio.nagoya-u.ac.jp/labhp/bioanal1/

車両入構口から駐車場／ご集合(説明会場)場所への導線

